

No40 祈り その後 0 2

義高 亘

R 君と一緒に制作した祈りはアニメフェスティバルでグランプリなど数々の賞を受賞しました。それは特支教育の生徒でも学生としてでなく一般のプロ作品とも比較しての結果です。新聞やテレビにも取り上げられ、二日間張り付かれて制作活動も記録しテレビ放映もされました。制作の記録を見ておわかりのように彼は絵を瞬く間に描けます。

しかし他のこと支援が必要です。幸い学級の仲間になった S 君がいました。

彼ら二人の実態把握分析をチャートにしました。お互いに字が描ける、文が書ける、という長所で短所を補い分担してアプリを制作しました。

アニメとアプリの同時制作は私たちだけでは人手不足でした。芸術工科大の学生さんや音楽のセミプロにも参加してもらい制作チームを結成しました。そうして出羽風土記制作委員会という組織で制作したアプリ「出羽風土記」は文部科学大臣賞を受賞することが出来ました。

これは他に参加した大学の研究者たちの評価を上回った結果です。

特支学級だけでの制作は出来ませんでした。立派な制作組織の一員として特支学級の生徒たちが機能し貢献できたことは素晴らしいことと思います。また特支学級内でも生徒間で長所を伸ばし、短所を補う活動が出来て良かったです。

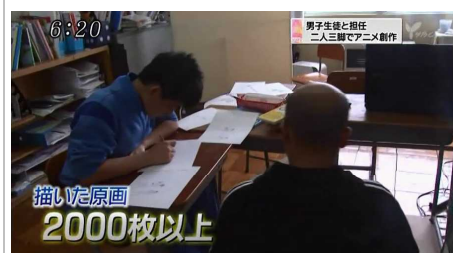
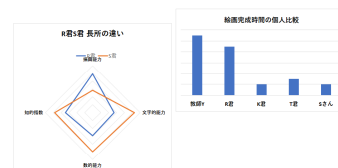
また別件ですが、アニメの方もアジア国際映画祭で文部科学大臣賞を受賞しています。

この 3 年間はアニメでもアプリでも文化大臣賞を二つ受賞する二冠でした。また別のアニメはアジアデジタル大賞でも受賞をしています。

新聞記事等をご覧ください

国際映画祭では当時 AKB センターの高橋みなみさんから大きいトロフィーを受け取れました。芸能人や各国の代表とも交流ができて幸いでした。ただ生徒と参加する国際映画祭ははじめてでしたの

制作集団でつくる



で、準備不足が大きかったです。

次の学校でも各種国際映画祭等にノミネートの機会がありましたが、その時は少々準備ができました。その件は機会があれば提示いたします。



S君は得意な文書入力で制作参加



R君は得意な描画で制作参加



大学生も含め制作チームを結成



学級に新しい仲間 S君が加わる



国際映画祭ではAKB高橋みなみ（当時）からトロフィー



次の学校でも 生徒とともに
各種映画祭で大賞をめざして制作活動をしました



2015年(平成27年)12月30日 水曜日 享月 日 癸丑

アジア国際子ども映画祭
新庄・日新中が文科大臣賞
戦争の恐ろしさなどアニメに

新庄市立日新中学校G組制作の短編アニメ「祈り」が、「第9回アジア国際子ども映画祭」(同映画祭実行委員会主催)で文科大臣賞に選ばれた。3年生の斉藤諒さん(15)の原画をもとに、生命の進化や歴史の進歩、戦争のおそろしさなどを表現したものだ。映画祭は11月28日、北海道北見市で開かれた。斉藤さんは人と関わるのが苦手だが、義高教諭はその絵心に以前から感心していたという。「祈り」の原画は、斉藤さんが友達とトラブルを起こした時に描いたもの。義高教諭が「人と争うことは戦争と同じではないことだよ」と諭すと、「戦争はダメです。僕祈ります」と言って描いたという。

賞状を手にする斉藤さん(中央)、義高教諭ら＝新庄市立日新中学校

道北見市で開かれた。斉藤さんは人と関わるのが苦手だが、義高教諭はその絵心に以前から感心していたという。「祈り」の原画は、斉藤さんが友達とトラブルを起こした時に描いたもの。義高教諭が「人と争うことは戦争と同じではないことだよ」と諭すと、「戦争はダメです。僕祈ります」と言って描いたという。

高教諭と成長

END